

「挑戦する心」

校長 田中正樹

1学期が終わりました。まだ、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中ではありますが、工夫を凝らして、さまざまな行事が再開されつつあります。昨年度中止であった県高校総体、芸術鑑賞は実施できました。悲願の東京オリンピックも無観客の競技こそあれ、23日から開催されます。新型コロナウイルスとの戦いはまだしばらく続きますが、さまざまな教訓を得つつ、時代は前に進みつつあります。

さて、1学期の始業式において、2・3年生の生徒さんに対し、まずは「問いを見つける挑戦」をして欲しいと伝えました。先日、川津公民館を会場とした地域探究企画を校長室に持ってきてくれた生徒さんがいましたが、この生徒さんは立派に「問いを見つける挑戦」を実践してくれた生徒さんだと思いました。また、7月3日に、朝酌川河川敷をコスモスの花でいっぱいにするという「フラワープロジェクト」の種まきイベントがありました。1・2年生は土曜講座があったので3年生のみに声をかけさせてもらいましたが、直前の声かけにもかかわらず13名の生徒さんが参加してくれました。この生徒さん達も形は違いますが、自分に何ができるかを考え、一歩足を踏み出す挑戦をしてくれた生徒さんだと思います。本校でこのような生徒さんが育ちつつあることをうれしく思っています。

ところで、以前本校に勤務した際、全国のいろいろな高校の先生方と交流させていただいたのですが、その中で、「質問力」を取り組みの目標に掲げた先生がいらっしゃいました。その先生が言うには、「文系・理系問わず、全ての学びの原点は『質問力』にある。まず、『問い』を見つけ、それを言葉にして相手に投げかける。これができるようになれば必ず深い学びにつながっていく。」とのことでした。この先生がいらっしゃった学校はその後、多くの成果を上げたと聞いています。現在、島根大学のへるん入試で「学びのタネ」が取り上げられていますが、「質問力」のある人なら、たくさんの「学びのタネ」が見つかるのではないのでしょうか。本校が行っている「地域共創人育成Project」では、2学期により実践的な探究活動が用意されています。ぜひ、多くの出会いの中で、自らアクションを起こし、「質問力」を高めていって欲しいと思います。

今年の4月30日、私にとって尊敬する人がまた一人逝去されました。「知の巨人」と言われたジャーナリストの立花隆氏です。彼の詳しい紹介は省略しますが、彼は、学生たちに語っていた「生き方十箇条」の中で、「失敗は必ず起こる。それを隠さず、それに負けない強さを持って」という言葉を特に強調していたそうです。

先日、本校の卒業生でこの言葉のように、夢に向かって挑戦し続けている人のことを知りました。以前私が勤務していた2009年3月に本校を卒業した玉川康平さんです。彼は、高校時代、本校男子バスケットボール部の主将をし、東海大学に進学しました。バスケットボールの選手を目指して進学したのですが、その後チームを支える裏方の仕事に魅力を感じて渡米し、アメリカのジョージア大学でアメフトや水泳のトレーニング方法を学んだそうです。ジョージア大学卒業後は、更に健康管理やリハビリ支援に関する複数の資格を取得し、2019年1月からスタンフォード大学のバスケット専属スタッフを任せられ、そのコーチング技術の高さから2019年7月16日にNBA(アメリカプロバスケットボールリーグ)のサンズとコーチ契約を結びました。このことは、2019年8月9日の山陰中央新報にも取り上げられています。

このときの彼の思いは、「ファイナルに進出するチームをつくりたい」でしたが、そのサンズが何と、今年度、ウェスタンカンファレンスで優勝し、先日28年ぶり3度目のNBAファイナル進出を成し遂げたそうです。53シーズン目にして、NBAチャンピオンシップで初優勝を狙う舞台に上がることができました。彼自身、多くの挫折を経験しながら、立花隆氏の言葉のように、それを隠さず、それに負けない強さを持って挑戦し続けたからこそ、このような成果が訪れたことと思います。彼の挑戦する心が後輩にも引き継がれ、新たな挑戦が生まれることを願っています。

本校では、今回グランドデザインの目指す学校像の中に「地域連携で深い学びを追究する普通高校」を加えました。深い学びにつながるかどうかは、自分の中に「挑戦する心」が育まれているかどうか大きなポイントとなります。ぜひ、松江東高校で用意する様々な取り組みや地域の活動の場を利用して「挑戦する心」を高めてもらいたく思っています。